

ススキの穂、果物、紅葉、秋刀魚、金木犀の香り、初冠雪、...。首を長くして秋を待っていたカシミアの季節の到来です。

『貴方の希望のサイズで、貴方のお好きな色でお作りします』というニットのセミオーダーを初めて二十年になります。

これは業界では非常識な試みで、『本当に注文した商品が出来てくるのか心配』と云う声を何度も聴きました。今では懐かしい笑話で、工場のある岩手県北上市のふるさと納税の返礼品としてもご好評を頂いています。

秋の澄みきった青空に、五〇年前の東京オリンピックが思い起こされます。でも二〇二〇年は真夏の開催。あの猛暑の中で大丈夫か心配です。

「紹介されました」

地域産業の「現場」に行く***
関満博・著(明星大学・二ツ橋大学名誉教授)



地方で頑張っている企業を取材し続けている、関先生に取材して頂いた本が出版されました。機会がありましたら是非読んでください。

繊維産業の生産は海外移転という、ニット製造消滅の時代に、自社製造販売という、カシミアのセミオーダーで、「作りながら売る、売りが作る」という新しいビジネスモデルを評価して頂いています。

【この秋、さらに充実の UTO Kitakami】

オートクチュールの UTO
ブレタポルテの UTO Kitakai

カシミアニット専門・製造直売のUTOならではの価格でご提供します。

岩手県北上の若いナデシコたちと、日本の職人により一枚一枚丁寧に作られるニットです。

★カシミアニット自社工場の職人紹介①★
こんにちは、本社スタッフの飯塚です。

今回はユティオー若手工場「日夜セーター作り」に励む職人たちをご紹介させていただきます！



工場長 遠藤 政治

今年で七十二歳、若い頃からニット職人として働いてきて、ユティオー岩手工場が北上に出来る前は自宅前に工場を構えていたほど。まさに日本を代表する職人！工場から車で近頃のところに自宅があるので、お休みの日でも工場に来てカシミアニットの編み立てています。笑顔が温かく、お茶目な一面もある遠藤。ユティオーの緑の下の力持ちです！



リンキング 玉澤 愛美(ひでみ)

工場長の遠藤と一緒に若手工場をまとめる玉澤。二十九歳という若さでリンキング歴十年目に突入しました。日本では、成型ニットに欠かせないリンキング師がとも少ないのですが、繊細な技を必要とするカシミアニット作りでもこのリンキングという技術は必須です。おっとりとしていて物腰の柔らかな玉澤ですが、しっかり者の頼れる若手職人！



ニットプログラマー 小原 由莉子

写真を撮られるのが苦手なカメラを向けると逃げたまま小原。シャイな彼女ですが、岩手工場入り口の部屋で黙々とニットのプログラミングをこなしています。夏の暑さと人こみが苦手な小原は、いつもクールに企画とやりとりをしながらニットの設計図を作ります。

【青山・表参道界限】

UTOはこんな街から発信しています

青山通り

都電がのんびりが走る庶民の街だった青山

一九九二年に南青山・骨董通りの中ほどで創業して早や二十三年が過ぎてしまいました。東京で骨董通りと云うと、かなりの人が知っていますが、東京以外ではあまりなじみがないかも知れませんが、それに比べ骨董通りが接する青山通りはポピュラーです。なんといっても、表参道と青山通りはメジャーですね。

青山通りと普段は呼んでいますが、ここは国道二四六号線の一部です。ニイ・ヨン・ロク(国道二四六号線)はここから神奈川県を通って静岡県沼津迄二〇キロ以上もあります。その二四六号線内、皇居のお堀端にある三宅坂を起点に、渋谷までが青山通りと呼ばれ、渋谷から多摩川までが玉川通りと呼ばれています。

起点の三宅坂は、江戸時代に田原藩(愛知県田原市)一万二千石の三宅家の上屋敷があったことから三宅坂と呼ばれたそうです。三宅氏は徳川家康の家臣になり明治の廢藩置県まで続き、子爵になったそうです。三宅さんのお隣が彦根藩の井伊家の上屋敷で、あの桜田門外の変の井伊大老の籠はここから警視庁のある桜田門まで行って襲われたんです。屋敷からすぐ近くだと思えます。維新以後から戦前まで三宅坂には陸軍省と参謀本部があり、三宅坂と云えば陸軍参謀本部のことだったそうです。

この通りは江戸時代、厚木街道と呼ばれて、大山へ詣でる街道としてにぎわっていたそうです。一九〇四年(明治三十七)には市電が走り出し明治末には渋谷まで通じていたそうです。一九六八年に廃止になりその後はもっぱら地下鉄とバスが主な交通機関になりました。

四十年前前になりましたが、ニット屋になる前に海外旅行の会社を近くで開業したので、かれこれ四十年もここに辺で仕事をしていることになりました。青山通りも随分様変わりしました。当時、青山学院の向かい側は都バスの車庫でした。事務所が車庫の横だったので一日中バスの出入りと排気ガスの匂いで大変でした。それ以前は都電の車庫で、青山車庫前という駅があったそうです。ちなみに都電は骨董通りに入り口が青山六丁目駅で、骨董通りを通って新橋まで行っていました。今も八八番の都バスがほぼこのルートを走っています。

公営バスや電車の車庫があったくらいですからかなり広いスペースで、今此処には、こどもの城や国連大学、オーバルビル等の大きなビルがあるのもうなづけます。戦前は都電が走る庶民の街だった青山は、戦争末期の青山空襲で一部は焼け野が原になりその後東京オリンピックに向けて拡張工事で今の広さになったそうです。



カシミア100% オフタートル フラア ブルオーバー



1117-1204 ¥118,800 税込

ボリューム感のある豊かなフォルムのローゼンジブルオーバー。ふんわり柔らかな表情のある袴が特徴の個性的な逸品。少しのAラインが身体のラインをきれいに見せてくれます。

カシミア100% 7G ワイドリブ・タートルネック セーター



7117-1001 ¥73,440 税込

定番のタートルネックニットをワイドリブでお作りしました。リブの縦ラインが強調されて見た目もすっきりとした印象です。程よくフィット感がありますので、ベストやカーディガンのインナーに取り入れても驚おくれしません。

カシミア100% 4x2リブ 大判リブストール



1312-3277 ¥41,040 税込

縦半分がリブ編みと天竺になっている大判のショール。寒くなるこれからの季節に大活躍の逸品。上質なカシミアの優しい肌感覚をご堪能ください。ふんわりと軽く暖かい天使のようなぬくもりをお届け致します。

カシミヤとニットの話 * (五十二)

【UTOは、製品の真の価値は、原料とモノ作りだと思っています】

【世界最高峰のカシミヤ原料】

皆さまにご提供するUTOカシミヤ製品の原料は、世界の超一流ブランドが使用する世界最高クラスの原料と同等か、それ以上のグレードの原料を使用しています。ですから、有名ブランドの、○ネルや、○ルマーニにも品質では、絶対負けませんよ。

【原料の糸もメイド・イン・ジャパン】

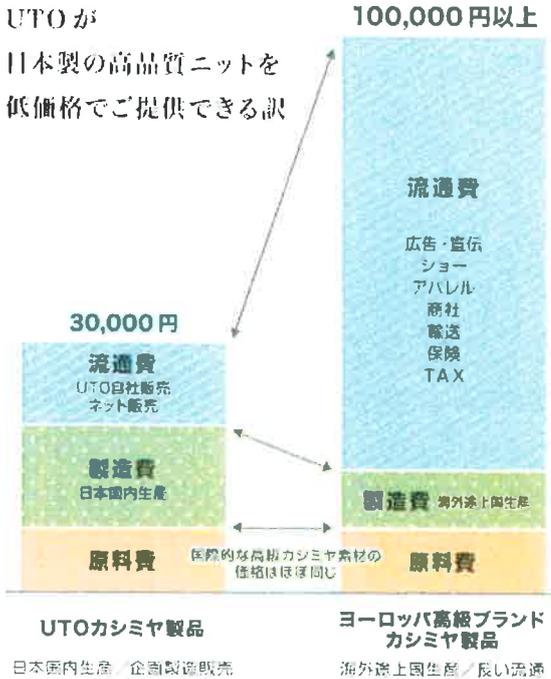
原料は世界最高峰の原料を使い、紡績は世界的に評価されている日本のカシミヤ糸の紡績会社、東洋紡糸工業（株）が紡績した糸を使用しています。製品の作りだけがメイド・イン・ジャパンであるだけでなく、糸もメイド・イン・ジャパンなのです。

【モノ作りに掛ける情熱】

UTOのモノ作りは、岩手県北上市の自社工場と、国内の熟練の職人さんの丁寧な作りの真正正銘のメイド・イン・ジャパンです。

【日本での製造はコスト高が悩み】

低価格を最優先に要求するファッション業界。途上国に比べ物価や賃金の高い日本国内でのモノ作りはコスト高になり大きなハンデイです。多くのアパレルが海外の工場に生産を依頼し、その為に多くの国内の工場が閉鎖を余儀なくされてきました。



UTOが日本製の高品質ニットを低価格でご提供できる訳

【企画・製造・販売のすべてを、自社で行うことで低価格を実現しました】

日本での製造は、人件費が高いことでコスト高が悩みですが、日本で生活するにはどうしようもないことです。UTOでは、自社での企画・製造・販売という流通の簡素化により、世界の一流ブランドにも負けない品質にも関わらず、しかも人件費の高い日本の製造でも、このリーズナブルな良品良価を実現しました。

【長い流通で高騰する価格】

ファッション業界は流通が長すぎると久しくいわれてきました。通常出来上がった製品は、工場から、商社、アパレル、小売店と渡り、ショーや宣伝などの経費をかけられて、お客様に渡る価格のほとんどが流通価格という本末転倒の現象もみられます。

観光立国を目指してほしい



若いころから旅が好きで、それが高じて最初に就職したのが旅行会社でした。現在のカシミヤの会社を誰かがやっているなら、今でも一番やりたい仕事は旅行関係です。一昨年あたりから訪日旅行者の増加や、中国をはじめとするアジアからの旅行者の爆買いに気をよくして、日本政府は一三〇〇万人の訪日旅行者を目標に一気に増やそうという目標を立ててほしいと思います。

日本はモノ作り大国で発展してきたので、観光産業で多くの国民が生活できるとは思っていなかったのではないかと思っています。海外では観光を一番の産業にしている国も少なくありません。しかも観光産業はとて裾野の広い産業です。製造業に比べると季節変動や風評などがリスクですが、製造業ほどの巨大な資金も必要もなくとも有望な産業だと思います。

マスコミなども、中国人などの爆買いなどに注目しているようですが、観光産業のメインは滞在費にあると思います。昔から私は、「二週間以上日本に滞在してくれる観光客は航空運賃を割引してあげる」ぐらいしても良いという程の過激派です。旅館だって宿泊客は自家用バスで送り迎えするほどです。旅行は、慣れない頃は団体などで決まってきたコースを旅するのが多いのですが、慣れてくるとだんだん個人旅行になり分散型になります。また、旅行先はじめの頃は有名観光地を訪れる物見遊山が主ですが、だんだんと滞在型に発展し、旅行期間も長くなる傾向にあります。

農家などに泊まるアグリ・ツーリズムなどが定着すると、農業収入に宿泊の収入アップで後継者などの解決にも貢献すると思います。しかし、旅館業者や行政の担当者などが「旅館業界は厳しい規制の中でやっているのに素人に安い値段で泊められたらたまらない」というような反対があるようですが、プロの業者とはおのずから違うと思います。ただ、旅行等に係わる法律も、作られた時代を反映していると思いますので、時代に合ったものに改正しないといけないでしょう。と云ことは、観光客を増やすには何よりも法律を作る議員の皆さんに仕事してもらわなければならないと思います。

一升拵の中での取り合いではなくみんなで拵を大きくする努力をすることが大事でしょう。

世界のホテルを旅する(五十二)

元 旅行屋のお勧め 袋井・静岡 葛城北の丸

今回のお勧めは、葛城北の丸です。静岡県袋井市にある葛城(かつらぎ)は、なかなか仰々しい名前ですが、ゴルフファンならまず頭に浮かぶのが葛城ゴルフクラブですが、でもっとホテルとして評価されて良いホテルだと思います。

「着きましたよ」と言われてタクシーから降り立つと石畳の上に壮大な長屋門が迎えてくれました。大門の前の一對の常夜灯がアクセントになってなかなかの演出です。この常夜灯は夕方になって灯が入ると大木根のシルエツトと調和していつその趣を増します。まるで江戸時代にタイムスリップして、豪族の平城が庄屋様の家に居るような不思議な感覚です。旧家を解体して再築したという建物で日本の良き伝統を守り継ぎ現代に甦らせたセンスはさすがです。

案内された部屋は落ち着いた色合いのツインルームで広さも十分でした。これなら外国人が泊まっても日本の古い建築の良さや食事を堪能して部屋に帰っても戸惑うようなことは全く無いという、和と洋が調和していると思います。グルメ中のグルメと云われたヤマハの亡き川上源一会長が思いを込めて作ったというホテルだけあって食事には大いにこだわっています。食材のほとんどを敷地内の畑で自家栽培するという力の入れようです。一泊二食付で申し込んだのですが、食事の席に着くとお客様の名前入りで、料理長による毛筆で書かれた品書きがセットされていました。



ヨーロッパには古いお城や宮殿をホテルに改築したシャトーホテルが沢山ありますね。ホテルが沢山有ります。街を一望する丘の上や、街外れの静かな森の中のシャトーで過ごすことは旅の大きな楽しみの一つで、歴史的な建物は旅人を泊める宿泊施設というよりリゾートホテルという感覚です。シャトーホテルに泊まることは旅の大きな目的の一つで、シャトーホテルに泊まることを目的にコースを選ぶこともあるくらいです。堅固な石垣で巡らされた葛城北の丸は、日本版シャトーホテルだと思います。ヨーロッパのシャトーホテルにはもっとと敵つた石造りの建物も有りますが、この葛城北の丸はシンプルなお木造なのにヨーロッパの石造りを凌ぐ威厳を感じます。

我が日本に、日本の伝統を誇る歴史的な建物のシャトーホテルが無いのが残念でならなかったのが、葛城北の丸が出来、やっと日本にもシャトーホテルが出来たと喜んでます。ゴルフ場より有名になってほしいホテルです。